

資本と地域

第15号

巻頭言	川瀬 光義 (1)
論文Ⅰ	
高度経済成長期における「東北」の人口移動と地域産業の展開 ——青森県むつ市脇野沢地区を事例として——	望月 理生 (3)
論文Ⅱ	
災害復興におけるグループ補助金制度の機能と能動的運用主体 ——福島県における実態とあぶくま信用金庫の取り組みを中心に——	金 佑 榮 (17)
論文Ⅲ	
地域経済のグローバル化と世界経済への包摂構造 ——宮崎県における財・サービス貿易動向を中心に——	小 山 大 介 (40)
書評会	
資本主義的食料システムを分析する	(58)
書評	
平賀 緑 著『植物油の政治経済学 ——大豆と油から考える資本主義的食料システム——』	渡 邊 英 俊 (68)
地域経済の現場からⅠ	
持続的なまちづくりイベントが地域社会の振興にもたらす可能性についての一考察 ——京都市山科区の灯りイベント「陶灯路(とうとうろ)」を事例に——	大 田 雅 之 (70)
地域経済の現場からⅡ	
天若湖アートプロジェクト——アートで流域をつなぐ試みの報告——	吉 岡 久 恵 (73)
地球を歩く	
研究と社会運動はひと ——「家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン」を立ち上げて——	関 根 佳 恵 (76)
大学のいま	
図書館における資料保存と研究者の責務	宇 都 宮 千 穂 (79)
研究会活動報告	(82)
地域経済研究会会則、投稿規定	

地域経済研究会の会則及び概要

地域経済研究会会則

第1条 (名称)

本会は、地域経済研究会と称する。

第2条 (目的)

本会は、地域経済に関する研究及びその普及、並びにこれらの研究者の連絡協同を目的とする。

第3条 (事業内容)

本会は、研究会の開催、会誌及び書籍の刊行、その他本会の目的を達成するに適切な諸事業を行う。

第4条 (会員)

本会の目的に賛同して会員となるには、本会に申込み、事務局の承認を受けることを要する。会員は、年会費 1,000 円を納めることとする。

第5条 (代表者)

会員によって互選されたものが代表者となり、会務を執行する。

第6条 (事務局)

代表者のもとに事務局及び会計担当者をおき、日常の業務を執行する。

第7条 (事務所)

本会の事務所は、京都市京都市山科区大宅山田町 34 京都橋大学現代ビジネス学部のランビーノ、パラガス研究室に置く。

第8条 (設立年月日)

本会は、1996年5月11日に設立する。

地域経済研究会の概要

【概要】

本研究会は、地域経済の理論、歴史、現状に関心のもつ研究者、大学院生、社会人が、隔月で開いている研究会である。

【会の略史】

1996年5月11日(土) 第1回研究会開催

2020年11月28日(土) 第124回研究会開催

【代表者】

岡田知弘(京都大学名誉教授、京都橋大学現代ビジネス学部教授)

【事務局・会計担当者】

ランビーノ, パラガス(京都橋大学現代ビジネス学部)

【「資本と地域」編集担当者】

宇都宮千穂(高知県立大学文化学部)

金佑榮(佛教大学社会学部)

【機関誌】

『資本と地域』(毎年1回発行)

【事務局連絡先】

〒607-8175

京都市山科区大宅山田町 34

京都橋大学現代ビジネス学部 ランビーノ, パラガス研究室

Tel/Fax : 075-574-4208 (研究室直通)

E-mail : O.chiikiken@gmail.com

投稿規程と執筆要項

投稿規程

1. 本誌は主として、地域経済研究会内外の会員による地域経済および関連諸分野の研究成果を掲載する。
2. 本誌は原則として、毎年1回発行する。
3. 本誌への投稿に際しては、以下の規定に従うこと。
 - (1) 本誌への投稿原稿は、地域経済および関連諸分野に限る。
 - (2) 他で審査中あるいは掲載予定となっているものは、本誌への投稿・発表を認めない。
 - (3) 投稿者は事務局宛に以下の全てをメールすること。
 - ・ 原稿のファイル
 - ・ 原稿の表題、投稿者の氏名・ふりがな、所属機関名と肩書等、連絡先[郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス]
4. 投稿原稿については編集委員会で審査し、掲載の採否を決定する。
5. 本誌掲載に際しての著者校正は1回(初校のみ)とする。
6. 原稿執筆の様式は執筆要項に従うこと。
7. 原稿およびその他の送付物はいずれも返却しない。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は地域経済研究会に帰属するものとする。なお、論文等は一定期間経過後、電子メディアによる論文情報検索・参照サービス等を利用して公開する。
9. 投稿の宛先は、「資本と地域」編集委員会宛 (shihontochiiki@gmail.com) とする。

執筆要項

1. 論文は図表を含めて上限を30,000字程度とする。
2. 研究ノートは図表を含めて上限を20,000字程度とする。
3. 書評は4,000字以内とする。
4. 原稿は、横書きで、句読点も含めて1桁1字(欧文および数字は1桁2字)で作成する。ワープロを使用する場合は、余白・行間を充分にとること。
5. 注は、引用注・説明注を区別せず、通し番号を付して一括して本文の末尾に記す。章あるいは節ごとに分割しない。なお、引用・参考文献の表示方法については、WEBサイト(<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~gak kai/shippitsuyouryo2018.pdf>)において、引用文献の表示方法の標準的なスタイルを示しているのを参照されたい。
6. 人名など特殊な場合以外は、なるべく常用漢字・新かなづかいを用いる。なお、資(史)料を引用する場合は、かなづかいはそのままとし、旧字(正字)の部分を通用の書体(新字)に直す。たとえば「圓」は「円」、「鐵」は鉄。
7. 単位の表記については、スペースを節約するため、できるだけ%、kgなどの略字を用いる。数字の表記については、原則としてアラビア数字を使用する。桁数の多い数字の場合は、「5億6,524万円」のように適宜単位を補ってもよい。
8. 謝辞は掲載できない。 「2019年5月 一部改正」

編集者のひとり言

『資本と地域』第15号をお手元にお届けさせていただきます。まずは「巻頭言」をご執筆いただきました川瀬先生をはじめ、各執筆者の方々に心よりお礼申し上げます。そして、地域経済研究会の活発な活動のために、会費やカンパをいただいた会員の方々のご協力に厚くお礼申し上げます。毎年のことながら、たくさんの方々のご理解とご支援のもとに、今年も無事に『資本と地域』を発刊できたことを大変嬉しく存じます。

2020年度より、新しい編集委員会の下で研究会紀要の発刊を進めておりますが、編集委員長の宇都宮さん、数年間編集委員長を務めていた三重さんが編集委員として活躍してくれました。また、オブザーバーの水島さん、事務局のジョン先生にも色々と相談に乗っていただきました。心より感謝いたします。なお、次号についても、新しい企画や現役の先生方々のゼミで行なった調査のまとめ、優秀な卒業論文など、様々な原稿が集まることを期待しております。どうぞ、次号も皆様のご協力ほどよろしくお願い申し上げます。(金 佑榮)

新しい編集委員会のもとで、なんとか年度内に15号の発行が迎えることができホッとしています。

2020年の正月を迎えた時には、まさかコロナ禍がここまで長期間続くこととは正直予想していませんでした。

その結果、大学を含め、社会システムや生活様式が大きく変化し、未だに自分も新しいシステムに十全に適応できていないと感じています。

他方で、オンラインでの研究会に懐かしい顔を見ることができたり、いつかはやりたいと思っていたデジタル機器の活用に取り組む契機になりました。

不安定で、先行き不透明な状況のなかでも、ポジティブに考える気持ちを持ち続けたいものです。(三重 遷一)

今回から、新たに編集委員に加わりました宇都宮です。どうぞよろしくお願いいたします。このたびは、皆様のご協力を得て、充実した内容の雑誌を発刊することができました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。院生や学部生が忌憚なく研究成果を発表・共有できる場として創刊した『資本と地域』ですが、年を経て関係者の多くが立場を少しずつ変えてきました。本誌のあり方について、みなさまのご意見をお寄せいただけますと幸いです。『資本と地域』が、みなさまの研究・社会活動・教育のお役にたつ学術雑誌になればと願っております。(宇都宮千穂)

『資本と地域』第15号編集委員会
編集委員：金 佑榮、三重 遷一、宇都宮千穂

資本と地域 第15号

2021年3月発行

発行人	岡田知弘
発行所	地域経済研究会
連絡先	〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34 京都橘大学現代ビジネス学部 ランビーノ、パラガス研究室 Tel/Fax：075-574-4208 (研究室直通) E-mail：0.chiikiken@gmail.com
印刷所	口座番号：00940-1-167133 (株) 田中プリント 〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入 Tel 075-343-0006